

【台湾ドルの動き】

2025 年 9 月の台湾ドル (TWD) は、前月末に対米ドル 1 ドル = 30.7 元台まで下落していたものの、その後台湾ドル高 (米ドル安) が進み、9 月 17 日には 1 ドル = 30.0 元台と約 1 カ月ぶりの低水準をつけました。しかし月後半になると米国金利動向や国際リスクの変化で米ドル需要が再び強まり、台湾ドルは下落 (米ドル高) に転じ、最終取引日の 9 月 30 日時点では対米ドル 1 ドル = 30.4 元台となり、月初と比べてやや台湾ドル高 (米ドル安) で終了しました。

【経済成長率見通しを上方修正】

台湾中央銀行は 9 月 18 日の金融政策決定会合で、政策金利を現行の 2.00% に据え置くと発表しました。同時に、2025 年の経済成長率見通しを従来の 3.05% から 4.55% に大幅上方修正し、インフレ率予想は 1.88% から 1.76% に引き下げました。一方、米国の追加関税や地政学リスクについては引き続き注視する必要があります。

【8 月輸出、過去最高を記録】

台湾財政部は 9 月 9 日、2025 年 8 月の輸出額が前年同月比 34.1% 増の 584.9 億米ドルと過去最高を更新したと発表しました。AI 関連の半導体・電子機器需要が好調で、特に米国向け輸出は前年同月比 65.2% 増、中国向けも 15.9% 増と大幅増加しました。台湾財政部は AI 技術の応用加速が輸出の追い風になると指摘し、9 月も 30~36% 増を予想しています。

【最低賃金引き上げについて】

労働部の最低工資審議委員会が 9 月 26 日に開催され、2026 年 1 月 1 日から月額最低賃金を現行の 28,590 元から 29,500 元 (約 3.18% 増) に引き上げる案を決定しました。時給最低賃金についても同率で調整され 190 元から 196 元に引き上げられます。これにより月給・時給とも過去 10 年連続で上昇することになり、労務コストや従業員の待遇改善の動きが加速する見込みです。

フェアコンサルティング台湾

(正緯管理顧問股份有限公司)

台北市松山區敦化北路 167 號 11 樓 C 室 宏國大樓

電話 : +886-2-2717-0318

担当 : 坂下 (SAKASHITA)

yu.sakashita@faircongrp.com

「FCG 中華圏 ニュースレター」本文の内容の無断での転載、再配信、掲示板の掲載等はお断りいたします。

「FCG 中華圏 ニュースレター」で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。

フェアコンサルティンググループでは、できる限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、「FCG 中華圏 ニュースレター」で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、フェアコンサルティンググループ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。